

2021年度業務実績報告書

参考資料

2022年6月

愛知県公立大学法人

	ページ	関連項目番号
【県立大学】		
1 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」	P 1	1,2,3,8
2 コミュニティ通訳学コース	P 4	4,6
3 学長特別教員研究費	P 5	18
4 愛県大アカデミックデイ	P 6	18,24
5 グローバル人材育成事業	P 7	20,26
6 愛知県との連携に関する取組	P 9	22
7 「認知症に理解の深いまちづくり」事業に関連した取組	P 10	22
8 ICTリカレントコンシェルジュ	P 12	23
9 国際戦略方針に基づくアクションプラン	P 13	26
【芸術大学】		
10 異分野のコラボレーション教育	P 14	30
11 アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業	P 15	30
12 アウトリーチプロジェクト	P 16	32,42
13 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻	P 18	33
14 芸術大学におけるキャリア支援	P 19	36
15 教員による芸術活動の主な実績	P 20	39
16 企業、研究機関などとの連携、共同研究	P 25	40
17 あいち2022芸術大学連携プロジェクト	P 27	41
18 あいちアール・ブリュット サテライト展	P 28	41
19 コレクション展	P 29	42
20 新サテライトギャラリー SA・KURA	P 30	43
21 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組	P 31	45
【法人運営】		
22 コロナ対策本部会議	P 33	46
23 トップマネジメントによる予算配分	P 36	48
24 2大学による連携事業	P 37	52
25 事務職員の育成(海外・他機関派遣研修)	P 38	55

1. 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」

【県立大学】

(概 要)

教養教育を学ぶうることこそ大学の特徴であるという考えを基礎に、「県大世界あいち学」という愛称のもとに、2021年度から新カリキュラムを開始しました。愛知に根ざしたグローバルな視野での学び、専門教育と表裏の関係での複眼的、領域横断的な知的基盤の獲得、予測困難な新時代を生き抜く人間力の涵養、といった考えのもとに学部間連携を主軸に自治体・産業界等との連携を組み込んだ科目編成と教授体制で実施しています。特に世界の最新情勢と愛知県の独自傾向を踏まえ、多文化・多言語への理解を通じた協働能力を涵養することとし、身近に必要性が認識されるポルトガル語教育に力点の一つを置いています。また、IT・AIなど技術革新の動向を踏まえてデータサイエンスなどの情報科学分野を重視しています。

特に、その中核をなす全学部連携科目2科目（APU 教養コア科目）と複数学部連携科目6科目（APU 教養連携科目4科目、APU 教養特別科目3科目のうち2科目）を以下の理念の中心と位置づけ、科目全体をこれに関連づけることで、教養教育の個性を生み出しました。第三期中期目標・計画の最終年度2024年度が新カリキュラムの完成年度となります。

(理 念)

人をつなぎ世界を結ぶ、愛知に根ざしたグローバルな視野をもって、次のような活動ができる素養を育む。

- ・ 人間性と文化について科学的な思考によって価値の相対化ができる
- ・ 予測困難な事態にも対応しつつ主体的に社会性をもって行動できる
- ・ 人権尊重や国際平和の普遍的価値に照らし、学びの英知を地域社会へ還元できる

(目 標)

教養教育の理念を達成するため、以下のような人間力の育成を目標とする。

- A) 基本的人権と国際平和の重要性を認識し、倫理観や正義感をもって行動できる。
- B) 国際社会とその多文化の諸価値を理解・尊重できる。
- C) 文化の違いを超えた相互理解のためのコミュニケーション能力と情報発信力をもつ。
- D) 課題解決のための合理的・論理的かつ批判的・創造的な思考力を有する。
- E) 事実を客観的に分析・理解し、数理的・客観的なデータ分析ができる。
- F) 専門分野を超えた総合的な視点と考えを深めることができる。
- G) ジェンダーやセクシュアリティ、また弱者やマイノリティに適正な理解ができる。
- H) 生きる意味を自覚し、健康的な生活を探究しつつ将来を見据えることができる。
- I) 科学技術の発展と自然界の現状を理解することができる。
- J) 災害発生等の不測の事態に対処し、主体的に行動できる。

(科目構成の構造と概要)

○ **APU 教養コア科目** (2科目)として、「多文化社会への招待」※「データサイエンスへの招待」※を1年次必修とし、本学での学びの全容を理解しつつ主体的に選択できるように促し、情報科学による裏づけをも得られるようにした。5学部教員が連携し、5学部学生が領域を超えて学び合う。

○ **4科目群**に編成し、それぞれの中心に**APU 教養連携科目** (4科目)として「グローバル社会の諸問題」※「エリアスタディーズ総論」※「ものづくりの現状と課題」※「いのちと防災の科学」※を置いた。【下記表】

○ **APU 教養特別科目** (3科目)として、「教養留学修得科目」「県大エッセンシャル」※「県大教養ゼミナール」※(選択科目)を、フレキシブルかつ積上げ式科目として置いた。

○ 外国語・キャリア教育・スポーツ実践の諸科目も、教養教育全体に含み込み、教養教育の理念のもとにあることを明確にした。

※ 全学部連携科目2科目と複数学部連携科目6科目

○ **4科目群の構成**

(1) 世界を理解する： 多文化・多言語の実際を学び社会での協働に役立てる科目群

科目の小区分	概 要
APU 教養連携科目	「グローバル社会の諸問題」として、外国語学部教員を中心に、年度ごとに設定するテーマに関係深い他学部教員が連携担当する。
多文化理解	触れたことのない文化や言語に接して自国の文化や言語を見つめ直し、グローバルな場面への備えを探る。「Global Vision Talks」「Japan's Interactions with Other Cultures」「Japan Seen from Outside」といった外国語授業を主とする。
外国語科目	英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語、日本語の各I IIと、「教養外国語ショートプログラム」を置く。
外国語セミナー	上級履修科目として英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の各セミナーを置く。

(2) 地域を掘り下げる： 愛知・日本・世界の諸地域を身近な生活に即して理解する科目群

科目の小区分	概 要
APU 教養連携科目	「エリアスタディーズ総論」として、外国語学部と日本文化学部の教員が連携して、特定地域の歴史、社会、文学、文化など多角的に探る。
愛知・日本	愛知、東海地方、日本それぞれの文学、歴史、ことば、生活を地域に根ざした文化という観点から学ぶ。
諸地域研究	現代社会について注視しつつ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカといった世界の歴史・文化を学ぶ。

(3) 社会に生きる： 現代社会の実相を学術的に探究しつつ身近な課題を見つめ直す科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「ものづくりの現状と課題」として、日本文化学部と情報科学部の教員が連携担当し、愛知のものづくり企業の協力のもと、チームでプロジェクトのテーマを設定しつつ、課題解決に取り組むプロジェクト型実践教育。
現代社会	私たちを取り巻く現代社会の仕組みや文化について、主に社会科学の手法を通して理解し、現実社会の課題を見つめつつその解決策を構想し、将来を展望して生き抜く力の基礎を培う。
キャリア・プランニング	1年次から4年次までの各段階に即して、本学で学ぶ意義を卒業後の人生行路との関係で構想する、積上げ式のキャリア教育科目群。愛知地域の産業動向や、卒業生の活躍現場などを参照する。

(4) 科学と人間を深める： 人間知の科学的探究力と心身豊かな人間性を涵養する科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「いのちと防災の科学」として、教育福祉学部と看護学部の教員が連携担当し、防災・減災のための知識やスキルを学ぶと同時に、医療・教育、福祉、心理の観点からさまざまな立場の人のいのちを守るということについて思考を深める。
自然科学	自然現象と人類科学から見出される普遍的な法則性探究の歴史を背景に、私たちを取り巻く現在と今後の課題解決について考える。
人文科学	哲学、心理学、文学、芸術鑑賞・表現に関わる人間諸活動の叡智に触れ、人類の文化や歴史の本質と価値を探りつつ自らを省察する。
情報科学	IT・AIなどの技術革新の動向を見きわめ、情報科学の技術と倫理を身につけ、次世代を展望しつつ主体的に生きる方法を身につける。
スポーツ・健康科学	生き方と心身との関係、健康づくりの科学的方法、などを学術的・実践的に学び、主体的な生涯スポーツ実践たることを目指す。

(新教養教育カリキュラムの効果について)

2021年度開講科目「多文化社会への招待」の単位取得率は99%、「データサイエンスへの招待」は同97%と、いずれも高い水準であり、レベル設定と授業運営は妥当であったといえます。また履修した学生のアンケートからも、「異なる学部の学生で構成されたグループワークでは、メンバーそれぞれが専攻する講義で得た知識や思考を活かしながら意見を出し合い、その発想に刺激を受けた」や「データから正確な情報を読み取る過程や、実際にデータがどのように取得されているかを知ることが非常に重要なことだと考える」との意見があり、複眼的、領域横断的な知的基盤の獲得に向け、学生の視野を広げることができたと考えています。

2. コミュニティ通訳学コース

【県立大学】

(概要)

コミュニティ通訳は、医療、司法、教育、行政、福祉等の領域で実践され、外国籍住民など、日本語を母語としない人の基本的人権を保障するために必要な通訳です。

愛知県に暮らす外国籍住民は、約 27 万人で東京都（約 54 万人）に次いで全国第 2 位であり（2021 年 6 月時点）、役所、病院、学校、警察、雇用相談、法律相談、防犯・防災活動など、さまざまな場面で多言語対応が求められています。コミュニティ通訳には語学力に加えて関連分野の知識や高い倫理観が求められ、その指導を行える人材は限られているにもかかわらず、体系的な教育を行っている大学はほとんどありません。

こうした現状を踏まえ、コミュニティ通訳に関する知識やスキルを体系的に学び、高い専門性を有する人材を育成することを目的として、国際文化研究科国際文化専攻にコミュニティ通訳学コースを設置します。

(育成する人材像)

1. 専門性を持つプロフェッショナルなコミュニティ通訳者
(医療、司法、教育、行政、福祉等の分野に必要な知識、異文化理解力、通訳者倫理を身につけた専門家)
2. コミュニティ通訳コーディネーター
(専門知識と語学力を持ち、通訳者とユーザーの間を調整し、社会インフラとしてのコミュニティ通訳を効果的に機能させる人)
3. コミュニティ通訳分野における指導者、研究者となる人

(コースの特徴)

カリキュラムには「理論」「実践」「研究者としての能力」の 3 要素を含み、多文化共生論、現場実務に関する知識、事例研究を含むコミュニティ通訳研究、言語別演習、実務演習、アカデミック・プレゼンテーションに関する科目があります。主な指導言語は日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語で、人間発達学研究科や看護学研究科の一部科目を履修することも可能です。

複数の大学院生と教授陣で構成する「合同ゼミ」において、修士論文（または特定課題研究成果）の執筆に向けた指導を行います。また夜間や土曜日、オンライン等も指導に活用することで社会人にも配慮します。

3. 学長特別教員研究費

【県立大学】

(概 要)

専任教員の学術研究を奨励し大学の発展に寄与するため、学長が予算の範囲内で選考・交付する学内の競争的研究費です。独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業に応募し、不採択となった者を対象とする「科研費採択奨励研究」、39歳以下の者を対象とする「若手研究」、従来の自身の研究とは異なる新しいテーマに挑戦する者を対象とする「チャレンジ研究」の区分で計9件の採択を行ったほか、他学部や産学公と連携する者を対象とする「共同研究（他学部・産学公）」の区分では3件の採択を行いました。

(「共同研究（他学部・産学公）」採択実績)

(1) 空間のアセスメントを学習するための映像教材

研究者：看護学部教員、情報科学部教員

採択区分：他学部

採択金額：1,059 千円

内 容：物の多い自宅、スペースが限られる病室といった患者の生活空間（環境）におけるリスク等を分析するためのアセスメントを学ぶ映像教材の作成と、その教材の活用方法を検討した。

(2) 愛知県におけるコミュニティ通訳に関する調査

研究者：外国語学部教員、民間企業、県職員

採択区分：産学公

採択金額：619 千円

内 容：県内市町村、保健医療・教育等の分野で通訳関連の業務に携わる者を対象に、調査紙によるアンケートやインタビュー調査の実施を通して、愛知県におけるコミュニティ通訳の現状とニーズを把握した。

(3) 三河・遠江のモノ・ヒトの往来をめぐる地域研究

研究者：日本文化学部教員、県内自治体、公的研究機関

採択区分：産学公

採択金額：409 千円

内 容：三河の鵜殿氏から遠江の鷺津本興寺へ寄進された『源氏物語』写本を中心とした蒲郡市博物館での展示企画や、モノ・ヒトが移動する大きなルートである東海道の調査を目的とした碧南市でのフィールドワークなどを通し、大学、博物館、寺院を拠点とした地域文化研究を行った。

4. 愛県大アカデミックデイ

【県立大学】

(概 要)

従来、開催してきた「教員研究発表会」や「ポスター発表会」の企画を拡大し、2021年度から発足した新研究所・プロジェクトチームの研究成果報告と併せて「愛県大アカデミックデイ」という新企画として開催しました。

(Day 1 : 9月8日・学内限定公開) 学術研究情報センター主催

方 式 : オンライン (Zoomによる生配信)

参加者 : 106名

内 容 : ○学長特別教員研究費「共同研究(他学部・産学公)」の採択研究3件の研究発表
○その他の教員研究16件の研究発表(別紙一覧参照)

(Day 2 : 12月8日~14日・学外にも公開) 地域連携センター主催

方 式 : オンデマンド(期間限定で動画を配信)

視聴数 : 380回

内 容 : ○シーボルト賞受賞記念講演(2021年度フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞を受賞した教員による講演)

○研究所・プロジェクトチーム紹介

①ICTテクノポリス研究所 / ②次世代ロボット研究所 / ③生涯発達研究所

④多文化共生研究所 / ⑤人間の尊厳と平和のための人文社会研究所

⑥“まもるよ ちいさないのち!” 地域災害弱者対策研究所

⑦地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的とした
ニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト

○教員による研究発表(別紙一覧参照)

5. グローバル人材育成事業

【県立大学】

(概 要)

新しいグローバル時代を切り拓くという強い意志とチャレンジ精神を持った学生を育成するとともに、地域の課題解決に貢献することを目的に、2012年10月から2017年3月まで外国語学部で展開した「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援プログラム」を継承し、2017年度から全学プロジェクトとしての「新グローバル人材育成事業」を展開しています。

(事 業)

○グローバル実践教育事業

従来からの“語学力養成”に加え“異文化理解・多文化共生”を重視し、大学が持つ文・理5学部の視点から、地域のグローバル化に伴う諸課題に取り組み、解決する力を養うプログラムになっています。2021年度からは、教養教育新カリキュラムのなかにプログラムを位置づけ直しました。

プログラムの履修科目には、フィールドワークやPBL型授業をはじめとした実践型科目を組み込み、全学部学生が履修できる教養教育科目で構成される20単位のプログラムを設置しています。すべて正規科目として卒業単位に含むことができるため、学生もチャレンジしやすいものとなっています。

さらに、iCoToBa(多言語学習センター)の全学利用により、英語コミュニケーション講座、留学前準備講座・検定試験対策講座等に加え、各学部の特色に合わせた地域コミュニティ言語講座(教育・看護・防災等)や本学教員や外部有識者を招き多彩なテーマを取り上げるグローバルセミナーを実施しています。

また、2021年3月でいったん活動を終了した通訳翻訳研究所を「iCoToBa分室」として、多言語学習の機能拡充を図り、社会連携に役立つ語学運用能力の向上と人材のネットワークづくりを推進してゆくことになりました。

○グローバル学術交流事業

教員(研究者)の国際研究交流活動を全学事業として実施し、さらにその活動を教育へとフィードバックする取組です。海外研究者およびグローバルな視点で活躍する国内研究者の招聘により、国際的な研究交流(教員)及び教育交流(学生)を行うことで、本学のグローバル化の更なる推進を目指します。

本事業の推進母体として設置したグローバル学術交流推進委員会において、毎年テーマを一つ定め、そのテーマに沿った海外研究者およびグローバルな視点で活躍する国内研究者を招聘し、教員同士の研究交流及び学内講演会を実施します。また、それらを教育にもフィードバックするため、年度ごとのテーマに即して、専門科目や教養教育科目「グローバル社会の諸問題」との連携を強化し、大学院生や留学生を含めた討論を組み込み、全学規模で事業を遂行しています。講演会およびそれに付随するシンポジウムなどを通じて、本学の教員・学生・大学院生が、キャンパスにいながらにして国際的な交流を行うことができるとともに、その経験を通して、研究のグローバル化や、学生の自主性と探究心、及び展開力をさらに高めることを目指した取組です。

2022 年度からは当該事業を研究推進局が主体となつて行うことを決定し、より学術性の高い企画の実施や教員同士の研究交流、グローバルな共同研究を推進していくための体制を整備しました。

6. 愛知県との連携に関する取組

【県立大学】

(概 要)

愛知県との連携（事業の共催、ボランティア活動の学生等への協力依頼、審議会等委員への就任、愛知県立大学のキャンパスの利用、イベントへの参加・出展等）を一層推進するために、愛知県庁6部局と地域連携に関する会合（訪問1回・来学9回・意見交換会4回）を実施しました。こうした会合の結果、2021年度の新規共催事業1件、継続事業3件（以下の表の通り）の実施につながりました。

	形態	実施回数（部局数）	2021 新規の共催事業・地域貢献活動(*4)
地域連携に関する会合・共催事業等	訪問(*1)	1回(1部局)	
	来学(*2)	9回(5部局)	
	意見交換(*3)	4回(2部局) ① 産業人材育成課 ② 教育委員会高等学校教育課	① 県立高校における「県大 学生自主企画」研究発表会動画の活用（県立高校との連携事業）
	計	14回(6部局)	1件

(*1) 訪問：ニーズ把握のため地域連携センターが県の関連部署を訪問
（場合によってはオンライン会合）

(*2) 来学：事業等の要請のため県の各部署が地域連携センターに来学
（場合によってはオンライン会合）

(*3) 意見交換：県の関連部署と本学の複数の関連学部・研究所等が関わって、具体的な共催事業や地域貢献活動の実施に向けて検討するために設ける会合
（場合によってはオンライン会合）

(*4) 共催事業・地域貢献活動：訪問・来学・意見交換会によって実現した、当該年度の新規共催事業あるいは地域貢献活動（協定締結、審議会委員等への協力、学生ボランティア活動は除く）

7. 「認知症に理解の深いまちづくり」事業に関連した取組

【県立大学】

(概要)

愛知県が2017年に策定した「あいちオレンジタウン構想」に基づく「あいちオレンジタウン構想第1期アクションプラン」および、2020年に策定した「あいちオレンジタウン構想第2期アクションプラン」の基本理念である「認知症に理解の深いまちづくり」の実現に向け、「あいち認知症パートナー大学」として、様々な取組を行っています。主な取組は以下の通りです。

(2019年度)

1. 学生を対象とした認知症に理解のある人材育成
 - ① 認知症ボランティア説明会、認知症ボランティア学習会などの開催
2. 学生の活動支援
 - ① 長久手市「大学連携提案事業助成金事業」に「明日を共に生きるカフェ『あすともカフェ』」—地域の防災における認知症当事者家族と地域、学生の有機的連携」を申請し、採択された学生ボランティア団体の活動を支援
3. 地域住民対象（認知症に理解のあるまちづくり）
 - ① 認知症VR体験講座の開催（県福祉局高齢福祉課との共催）
4. 地域への発信
 - ① 本学図書館内に「オレンジ本棚」（認知症関連図書・DVD等をまとめて閲覧できるコーナー）および、本学が「あいち認知症パートナー大学」であることを示す案内版を設置

(2020年度)

1. 学生を対象とした認知症に理解のある人材育成
 - ① 認知症サポーター養成講座の開催
2. 学生の活動支援
 - ① LINKtopos（全国公立大学学生大会・オンライン）において、高齢者の孤立予防を目的とした学生の自主活動の動画作成と発表を支援
3. 地域住民対象（認知症に理解のあるまちづくり）
 - ① 長久手市の認知症カフェ「喫茶オレンジ」の企画・運営に協力し、オンライン・カフェの開店を支援するとともに、学生の傾聴ボランティアとしての参加を支援
4. 協定・研究活動
 - ① 県と「認知症高齢者の災害時支援に関する連携と協力に関する協定」を締結
 - ② 教員による研究「認知症対応型グループホームを拠点とした災害時要援護者支援モデルの構築と地域展開」の開始

(2021 年度)

1. 学生を対象とした認知症に理解のある人材育成

- ① 認知症サポーター養成講座のオンラインでの開催（長久手 C からの配信、新聞掲載）

2. 地域住民対象（認知症に理解のあるまちづくり）

- ① 長久手市の認知症カフェ「喫茶オレンジ」の企画・運営に協力し、ウィズコロナ型カフェへの、学生の傾聴ボランティアとしての参加を支援

3. 地域への発信

- ① 「あいち認知症パートナー大学」の取組として **2019** 年度に設置した「オレンジ本棚」に、認知症関連資料（図書、DVD）を追加し、充実を図った。

8. ICTリカレントコンシェルジュ

【県立大学】

(概要)

情報科学部では2021年12月から、社会人、団体、企業等を対象とした「ICTリカレント教育コンシェルジュ」をスタートしました。

社会人の方々の場合、学習歴、背景知識、学習上の悩み、身につけているスキル、学習の目標等は多種多様と考えられます。したがって、学び直しにおいては、様々な学習の個性に合わせた学び方が不可欠と考えられることから、個別面談を通じたニーズの把握により、相談者に応じた適切な学びの提案を行うことを目指します。

2021年度は、2022年度からの本格実施に向けた試行としてサービスを開始しました。

(2021年度の実施内容)

【方 法】個人面談によるカウンセリング

【日 時】毎週月曜日 15:00～18:10 (1コマ 30分)

【費 用】無料

【場 所】対面の場合：愛知県立大学長久手キャンパス
遠隔の場合：オンライン(Zoomを使用)

【相 談 員】教員 (情報科学部長)

【相談内容】① ICTリカレント教育についての相談

②愛知県立大学が提供している学ぶ制度の紹介

(学部・大学院入学制度、科目等履修生制度など)

③愛知県立大学で企画調整できる講座等の紹介、情報提供

【申込方法】専用メールフォームから申し込み

【相談件数】2件 (団体1、企業1)

9. 国際戦略方針に基づくアクションプラン

【県立大学】

(概要)

2019年の「国際戦略方針」に基づき、2020年には教育、研究、環境の3領域に跨る10項目のアクション対象分野を設定し、計41の活動から成る「アクションプラン」を公開しました。2021年度は、渡航制限のなかでの独自の国際交流活動を目指し、それまでのアクションプランの検証作業に着手しました。

(1) 海外留学と異文化間教育の活性化 (教育)

- I 異文化共感力を高めるための学内教育
- II 多様な文化的背景をもつ学生の受入と教育支援
- III 違いを認め合い国際平和に資する異文化間教育
- IV 充実した留学を実現するための体制

(2) 専門分野を横断する国際的研究への挑戦 (研究)

- V 国際学術交流の新展開
- VI 国境を越え専門を横断する研究体制
- VII 地域と共に生み出す多文化共生社会

(3) さらなる国際化を目指す大学づくり (環境)

- VIII 教職員の国際化とグローバル社会への対応能力
- IX 魅力ある大学国際戦略の策定と実行
- X 異文化間交流のための学内環境整備

(国際戦略方針に基づく2021年度の取組内容) * (カッコ)内はアクション対象分野項目番号。

1. 渡航制限のなかでの独自の国際交流活動の模索と展開

在外公館との連携や協定校との協力関係に基づく活動が展開されました (VII)。在名古屋ブラジル総領事館との共催で東海地方のブラジル籍児童 (中学生) を対象とした「サイエンス・フェア」を実施したほか、ブラジル政府から2年間の任期でポルトガル語ブラジル文化普及のための講師の派遣推薦校の指定を受けました。在京ウズベキスタン大使館からの招聘によって、国際戦略室教員が同国大統領選挙国際選挙視察団員として渡航したほか、同国の協定校のタシケント国立東洋学大学主催のオンライン国際会議では複数の教員が研究成果を報告し (V)、同大学主催のオンライン学生フォーラムには1名の大学院生が研究発表で参加しました (III)。愛県大グローバル人材育成事業調整会議を始動し、研究と教育に基礎を置く本学独自の事業の継続とさらなる展開を目指し (VI)、「異文化交流スペース」の整備に着手しました (X)。

2. アクションプラン検証作業の着手

国際戦略室会議および愛県大グローバル人材育成事業調整会議で、2020年度策定のアクションプランの検証作業の必要性が確認され、これまでの活動を点検し、アクションプランの検証におけるPDCAサイクルの構築を進めることで「魅力ある大学国際戦略の策定と実行」を目指しました (IX)。

10. 異分野のコラボレーション教育

【芸術大学】

(概要)

各専攻の明快な特色に基づく実技・専門教育による魅力ある学部教育推進を目的として、美術学部と音楽学部の学生が合同で課題に取り組む授業を新たに実施することとし、2021年度は美術学部陶磁専攻芸術表現コースと音楽学部作曲専攻作曲コースによる、合同授業を行いました。

(特徴)

本学では、美術学部と音楽学部を併せ持つ総合芸術大学としての強みを生かし、美術と音楽の複合芸術プロジェクトとしてオペラ公演に注力し、本学の明快な特色に基づく実技・専門教育を実施してきました。今年度より、その特色をさらに深化・強化させるための取り組みとして、各学部の必修授業において、2か月にわたる合同制作授業を実施することとし、美術と音楽の垣根を超えた異分野のコラボレーション教育を開始しました。

(内容)

授業科目	美術学部：陶磁実技 III（担当：長井千春教授） 音楽学部：作曲理論 IIIB（担当：成本理香准教授）
開講時期	2021年度後期（11月～12月）
対象年次	3年
授業目的・到達目標	（授業目的） 専門分野を超えた創作のコラボレーションを経験する （到達目標） 各専門分野の創作に新たなアプローチ法や視座の獲得を目指す
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、授業期間のプレ授業として前期7月に両専攻を見学し、各専攻の学生が、これまで創作した作品の発表会を実施 ・陶磁専攻と作曲専攻に関する基礎講義を担当教員が実施 ・各専攻の学生がペアとなり、それぞれの作品からインスピレーションを受けた新たな創作を2サイクル繰り返す ・成果作品の全体講評会を2回実施 ・成果作品発表のための計画、広報プランの立案 ・成果作品の発表会の実施
成果発表	<p>2022年4月に本授業の成果発表として、タイトル『レソナンシア/Resoncia』のもとで合同演奏会および展覧会を開催。展示企画、リーフレット、ポスターデザイン等全て学生自身が計画実施予定。</p> <p>（日程等）</p> <p>合同課題発表展覧会 4月19日～21日 10:30～16:30 芸術資料館</p> <p>合同課題発表演奏会 4月19日 18:30～ 室内楽ホール</p>

11. アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業

【芸術大学】

(目 的)

アーティスト・イン・レジデンスは、国内外の著名なアーティスト等の滞在型招聘により、本学の学生・教職員と交流事業を実施し、本学の国際化、芸術創造能力の向上を図ることによって、広く国際交流・文化振興に寄与することを目的とし 2007 年度より実施しています。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、2021 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における本学の活動指針に則り、2名のアーティストを招聘しました。

外国人客員教員による事業は、複数名の演奏家や作曲家を外国人客員教授として長期（2年間）または短期（2～6ヶ月間）で招聘し、授業や交流事業を実施することで、世界水準を肌で感じられる音楽教育を行うことを目的としています。

(内 容)

(1) 外国人客員教員による事業

① 招聘者（音楽分野 3名）

- ・イリーナ・チュコフスカヤ（グネーシン音楽大学教授）
雇用期間：2021年4月1日～2023年3月31日（2019年度より継続）
- ・フェデリコ・アゴ스티ーニ（イーストマン音楽学校教授）
雇用期間：2021年4月1日～2023年3月31日（2019年度より継続）
- ・クラウス・カンギーサー（ケルン音楽大学教授）
雇用期間：2021年10月11日～2021年12月10日（2021年度新規）

② 特別講座等

- ・愛知県立芸術大学 弦楽合奏第16回定期演奏会
- ・愛知県立芸術大学管弦楽団 第32回定期演奏会
- ・中村桃子基金研究助成事業 ショパンピアノ協奏曲の夕べ
- ・ケルンの風Ⅶ 20世紀初頭の作品を集めて

(2) アーティスト・イン・レジデンス

① 招聘者（美術分野 1名）

- ・水谷一氏（コンセプチュアルアーティスト）
招聘期間：2021年4月19日～2021年8月9日

② 招聘者（音楽分野 1名）

- ・文屋充徳氏（ヴェルツブルク音楽大学教授）
招聘期間：2021年9月28日～2021年10月15日

12. アウトリーチプロジェクト

【芸術大学】

(概要)

本プロジェクトは、芸術を必要としていながらホールや美術館に足を運ぶことが困難な方たちの元へ芸術家が出向いてアートを届ける活動のうち、届け先を病院に絞った「病院アウトリーチ」を実践するもので、本学の音楽・美術の両大学院生を対象に病院における良質な芸術活動に関わるアーティストを育成します。

大学院音楽研究科「アート・マネジメント」、美術研究科「プロジェクト研究」の授業を拡大し、病院における芸術活動に特化した音美合同の講座を2017年度より開設しています。受講生は、前期でアウトリーチの特色である対象者とのコミュニケーションに基づいた企画の実践として、子供向けアウトリーチを保育園や児童館等で行った後、後期で病院に特化したアウトリーチに関して理論と実習を通じてノウハウを学ぶことにより、「自ら企画し、実践できる」スキルを身に付けます。

医療における芸術活動は、必要性は認識されながらもいまだにノウハウが確立していません。本学においてそれに関わる芸術家が育成されることで、愛知県はもとより、日本全体にとって大きな成果が生まれることが期待されます。

また、本プロジェクトでは病院アウトリーチを行うアーティストの育成にとどまらず、病院における芸術活動に関する調査・研究を行うとともに、芸術による地域貢献も視野に入れた活動です。2019年度は、藤田医科大学病院において、従来の1階でのコンサートに加えて小児病棟でのコンサートを開始したほか、強い希望のあった名城病院や白山リハビリテーション病院、障害者支援等を行う施設などに活動の場を広げ、訪問先の患者に合わせたプログラムを検討して実施するなど、それぞれの病院の特性やニーズに合わせた取組を行いました。また、このプロジェクトが芸術教育自体に新たな可能性を開くものであることを提示する目的で、7月にシンポジウム「芸術教育の新たな可能性～愛知芸大「病院アウトリーチプロジェクト」がめざすもの」を開催し、本プロジェクトの今後の道筋を社会に問いかける機会を作りました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で病院では実施できなかったが、保育園において実施しました。また、各施設で視聴してもらうための演奏動画を試作しました。

本プロジェクトで学んだ学生たちは、アール・ブリュットの演奏会などでその知見を活かした活躍をしています。

2021年度も病院に訪問しての演奏はできなかったが、藤田医科大学に対しては、動画配信により音楽をお届けした。東部保育園及び社会福祉施設、障害者支援施設等に訪問しての演奏会を実施しました。また、あいちアール・ブリュットと連携して、10月にアール・ブリュット障害者アーツ展でコンサートを実施しました。さらに、東京藝術大学からの受託事業で「だれでもピアノ」のファシリテーターによるレッスンを実施しました。そのほか、愛知県立大学 ICT テクノポリス研究所との連携による「音楽の感情測定プロジェクト」にも関わることができました。

本プロジェクトで学んだ学生たちは、アール・ブリュットの演奏会などでその知見を活かした活躍をしています。

【2021 年度のアウトリーチプロジェクト実践場所一覧】

(1) 保育園

尾張旭東部保育園

(2) 社会福祉施設、障害者支援施設等

あしたの丘（名古屋市天白区）

春日苑（春日井市） ※ 打合せ等を実施したが演奏会は中止、動画を提供
NPO 法人ポパイ「スイーピー」、「オリーブ」（名古屋市北区）

あいさんハウス（津島市）

よつ葉の家（名古屋市西区）

(3) 病院

藤田医科大学（演奏動画、音声データ（院内ラジオ）の展開）

(4) だれでもピアノ事業

ソーネ大曾根（名古屋市北区）

おとわの杜（豊川市）

(5) 音楽の感情測定プロジェクト

本学演奏棟

13. 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻

【芸術大学】

(概要)

メディア映像専攻は、現代社会のコミュニケーションツールとなっているメディア映像や先端的な技術をベースとしたデザイン・芸術にアプローチし、新たなメディア映像表現を開拓することに挑戦します。

このことを実現するため、これまでの芸術の枠にとらわれずに分野・領域を柔軟に横断する独自の少人数教育でカリキュラムは構成されています。

学生は、メディア映像のスペシャリストになるための基礎的デザイン造形力を習得し、デジタル映像やアニメーションの制作技術、CGを利用したVFX・ARコンテンツデザインなどを始めとする、ポストブロードキャストを視野においたメディア映像表現の可能性を追求していきます。

さらに、デジタルアート&エンタテインメント・デザインとしてのメディア企画、アドバタイジングデザイン、メディアアート、デジタルアーカイブ、メディア映像文化研究など、新時代のアクティビティの多様性を学びます。

このように高度に情報化した社会に対するプロデュース能力を身につけていくことによって、様々な映像やメディアを通じた表現を新たなイメージで創造できるデザイナーやアーティストの育成をめざしています。

そして、最新情報を取り入れた質の高い教員を展開するため、国内の著名なアーティストである以下の4名を「特任教授」として2022年度に招聘することを決定しました。

石橋素先生（テクノロジーアート、ハードウェア開発）

長谷川愛先生（メディアアート研究）

比嘉了先生（CG表現研究、ビジュアルアート）

堤幸彦先生（演出家、映画監督）

【現行】

学 科	専 攻
デザイン ・工芸科 〔入学定員 45人 (180人)〕	デザイン専攻 〔入学定員 35人 (140人)〕
	陶磁専攻 〔入学定員 10人 (40人)〕

【2022年度～】

専 攻
デザイン専攻 〔入学定員 25人 (100人)〕
メディア映像専攻 〔入学定員 10人 (40人)〕
陶磁専攻 〔入学定員 10人 (40人)〕

専攻の
新設
➡

※()内は収容定員

14. 芸術大学におけるキャリア支援

【芸術大学】

(概要)

近年の芸術学生は、卒業後すぐに自立を目指す傾向が強く、就職希望者が急増していることから、大学におけるキャリア支援の重要性が高まっています。

本学では、学生それぞれが学ぶ芸術の専門分野を活かして就職活動を進められるよう、独自に企画したガイダンスの開催等により学生を支援し、高い就職率を達成しています（2021年度実績：就職内定率 84.9%）。

今年初めて実施した学部1・2年向け「電通アイデア創出ワークショップ」は学生から非常に好評で、来年以降も実施したいと考えています。今後も、クリエイターを目指す本学の学生にマッチした低学年向けセミナーを企業とタイアップして計画していく予定です。

(実施状況)

キャリアサポートガイダンス：28回実施（2020年度：8回実施）

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面とオンラインのハイブリット方式で実施

ガイダンスの種類	内容
対面（19回）	就活準備スタートアップガイダンス、就活マナー講座 インターンシップガイダンス（夏・秋）、自己分析講座 厚生労働省編職業適性検査（春・秋・冬） グループディスカッション講習（秋・冬） グループディスカッション演習（春・秋・冬） 業界研究セミナー（マスコミ・エンタメ） 内定者体験報告会（全学部・デザイン専攻単独） 筆記試験（SPI）対策講座、電通アイデア創出ワークショップ
オンライン（9回）	名古屋市教員採用試験説明会、愛知県教員採用説明会 私学教員採用説明会、サントリー企業研究セミナー コクヨ企業研究セミナー、サイバーエージェント企業研究セミナー ブラビスインターナショナル企業研究セミナー 芸術学生のための合同企業説明会の視聴ガイダンス 芸術学生のための合同企業説明会

15. 教員による芸術活動の主な実績

【芸術大学】

<美術学部>

氏名	業績
岡田 眞治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個展（日本橋三越、仙台三越） ・ グループ展 第6回 CINQ Lumiere（東京大丸、心齋橋大丸、博多大丸）
清水 由朗	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第76回春の院展出品「しじま」名古屋松坂屋美術館以後巡回 ・ 再興第106回院展出品「スタンドアロン」 東京都美術館、名古屋松坂屋美術館以後巡回 ・ 同人新作展出品「青薔薇」日本美術院
吉村 佳洋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第76回春の院展 春季展賞（郁夫賞）受賞 ・ 再興第106回院展 入選 ・ 個展 豊田画廊（愛知） ・ Premiere etoile 展（上野松坂屋） ・ 機の会（大阪・ギャラリー菊） ・ 青美展（名古屋美術倶楽部）
岩永 てるみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個展（日本橋三越） ・ 高知和紙日本画展晴晴会（大丸高知店・神戸店・松坂屋名古屋店・東京店） ・ 再興院展（東京都美術館他） ・ 春の院展（日本橋三越他）
阪野 智啓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第77回春の院展 奨励賞 ・ 個展「対」（日本橋三越） ・ 第43回文化財保存修復学会ポスター発表「瀬戸・長久手・豊田エリアにおける大学を中心とした持続可能な文化財防災ネット ワーク構築の試み」
阿野 義久	<ul style="list-style-type: none"> ・ あなたのためのカレンダー展 うしお画廊（東京銀座） ・ 丹桂の会 豊田画廊（愛知） ・ THREE POSITION+ うしお画廊（東京銀座） ・ 長久手アートフェスティバル（愛知）
倉地 久	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知覚の深度 Perceiving in Depth -植村宏木(ガラス) ・ 倉地比沙支（版画）による2人展 Lights gallery ・ 「不見富嶽八景 - Printmaking of Invisible Mount FUJI -」 ガルリ・ラペ ・ 2021 Taoyuan International Print Exhibition、Taoyuan Arts Center ・ 第88回日本版画協会版画展 東京都美術館 ・ 「Forbidden colors 禁じられた色彩」 SA・KURA ギャラリー
額田 宣彦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「new space new art」展出品 / hagiwara projects（東京） ・ 「ひとつの複数の世界」展出品 / 豊田市美術館（愛知） ・ 「抽象 Abstraction」CADAN×ISETAN ART GALLERY 出品（東京） ・ 「ボイス+パレルモ」展 / 豊田市美術館（愛知）関連イベント『インタビュー「画家が語る画家」』に参加。後に、このインタビューは「パレルモリオーダー」と題し出版（出版：豊田市美術館）。
井出 創太郎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 井出創太郎展 piacer d' amor bush-版と言葉 不在の庭-（ギャラリー プチボワ/大阪） ・ 『光射す器 種倉の影』展（種倉集落/岐阜県飛騨市宮川町） ・ 版画集による国際交流『版と言葉2021』参画
白河 宗利	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「AFAF アートフェアアジア福岡」（作品『v-c-Light2021』等の展示） ・ 「Collection 展」HRD FINE ART（京都） ・ 「葵の会」企画・会場：銀座スルガ台画廊（東京） ・ 「AFAF アートフェアアジア福岡」HRD FINE ART（京都） ・ 共同研究「鬼頭鍋三郎と松下春雄の女性像をさぐる」展（名古屋市美術館）の作品調査解説パネル ・ 「松下春雄の絵画技法―《花を持つ女》の自然科学的調査」（名古屋市美術館 研究紀要 第16巻） ・ 「鬼頭鍋三郎の絵画技法 一名名古屋市美術館所蔵《手をかざす女》の自然科学的調査」（愛知県立芸術大学紀要 No. 51） ・ 講演「時代を変革したアーティスト達 ―エポックメイキング的な作品の価値とは？―」 ・ ナゴヤイノベーションズガレージにて講演（主催：一般社団法人 中部圏イノベーション推進機構）

岩間 賢	<ul style="list-style-type: none"> ・中房総国際芸術祭「いちほらアート×ミックス」 役割：作家として出展しディレクターとしても芸術際に関与 ・日比財：団とハーモニック財団から研究助成採択 テーマ『JAPAN BULE「藍」—有機天然顔料の精製技術に関する研究』 役割：研究代表者 ・「旅するかたち」いちほら×メキシコ 月出工舎国際交流展 役割：ディレクターとして企画
大崎 宣之	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度文化庁新進芸術家海外研修制度により、シュトゥットガルト美術大学 (Staatliche Akademie der Bildenden KunstStuttgart) にて客員研究芸術家 (ゲストリサーチアーティスト) として研修をおこなう。 ・『Beyond the Surface TOSHIFUMI HIROSE NOBUYUKI OSAKI』MIKIKO SATO GALLERY (Hamburg・Germany) ・『ARTvent 2021』MIKIKO SATO GALLERY (Hamburg・Germany) ・『[m@p] meet @ post』Gallery PARC (京都) ・『ARTvent 2021』MIKIKO SATO GALLERY (Hamburg)
安藤 正子	<ul style="list-style-type: none"> ・個展「Portraits」小山登美夫ギャラリー (東京) ・グループ展「いのちの移ろい」(碧南市藤井達吉現代美術館) ・グループ展「虹をかける：原美術館／原六郎コレクション」(原美術館)
平川 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> ・個展「a film by」アンドーギャラリー (東京) ・イギリスのアートフェスティバル「Lumier」出品
横山 奈美	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト・イン・ミュージアム AiM vol.11 (岐阜県美術館) ・上田薫とリアルな絵画 (茨城県近代美術館) ・Welcome, Stranger, to this Place (東京藝術大学美術館 陳列館)
神田 每実	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちアール・ブリュット サテライト展/マテリアル(素材)の発見企画(愛知県陶磁美術館) ・第150回二科展 (東京)
中谷 聡	<ul style="list-style-type: none"> ・第84回刷新制作展出品 (国立新美術館、京都京セラ美術館) ・第8回日本芸術センター彫刻コンクール入選 (神戸日本芸術会館) ・第29回UBEビエンナーレ現代日本彫刻展入選 (宇部市ときわ湖水ホール) ・第8回花とみどり・いのちと心展 (国営昭和記念公園)
高橋 伸行	<ul style="list-style-type: none"> ・日比科学技術振興財団助成による一般研究課題「病者の身体をめぐる彫刻表現 その社会的位置づけと表現技術の研究」の実践 ・医療・福祉施設との協働によるアートプロジェクト (老人福祉センターぬくもりの里) ・瀬戸内国際芸術祭2022に向けての創作研究
竹内 孝和	<ul style="list-style-type: none"> ・個展「私はあなた、あなたは私」KOMAGOME1-14cas (東京) ・ドイツで滞在制作をしバイラムライン市立シュタッフェルフースギャラリーでドイツ人作家と2人展を開催
小西 信之	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌『ユリイカ』特集「アンリ・マチス」に「アメリカにおけるマチスの影響」を寄稿
本田 光子	<ul style="list-style-type: none"> ・『校訂 原本 古画備考』古画備考研究会 (担当:共編者(共編著者)、範囲:第3巻うち巻二十八から巻三十上・下の翻刻および校訂。)思文閣出版 ・口頭発表「土佐光起の源氏絵図様」第8回源氏絵データベース研究会シンポジウム「桃山・江戸時代源氏絵研究の最前線—図様の継承と創造」
望月 未来	<ul style="list-style-type: none"> ・猿投山麓文化交流事業 No.4 企画展「木のあられ」展 出展 ・KOUGEI EXPO IN AICHI (第38回伝統的工芸品月間国民会議全国大会) 伝統工芸産業ブラッシュアップ事業展 出展
水津 功	<ul style="list-style-type: none"> ・尾張旭市と協定を締結し、三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援事業を受託
柴崎 幸次	<ul style="list-style-type: none"> ・「素材の現在(いま)を見て、未来を考える」などのプロジェクト、及び工芸EXPOへの出展 ・東京小津和紙での展覧会
本田 敬	<ul style="list-style-type: none"> ・製品展示会において成果2点を発表し、うち1点でグッドデザイン賞を受賞。発表後に共同開発の申し入れや取材など、今後につながる連携を随時実施。 ・愛知県から依頼された社会連携PJでは伝統産業の事業者と協働し、対外的な魅力発信の要として学生提案を展示会で発表。良好な反響を獲得。 ・グッドデザイン賞の審査委員として、ユニット01のユニットリーダーを務め審査を実施
春田 登紀雄	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市共同プロジェクト採択「外国人のための行政手続の体験デザイン」 ・あいちサイエンスフェスタ「チョコレートのデザイン展」愛知の拠点出展 ・アートから生み出す Innovation ピッチ参加等

	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ拠点形成事業 プログラム共同代表者 ・スタートアップ拠点事業（アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営、指導支援人材プログラム(海外大学を含む tongali 主催の起業家育成人材プログラム修了)、拠点都市のエコシステムの形成・発展、本学のアントレプレナーシップ教育のPRパンフ並びにプロジェクトブックの企画制作)
梅本 孝征	<ul style="list-style-type: none"> ・「笠間陶芸大賞展 2021」入選（茨城県陶芸美術館） ・「第9回陶美展」入選（日本橋高島屋） ・「第9回菊池ビエンナーレ」優秀賞（菊池寛実記念智美術館）
長井 千春	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知やきものプロダクトデザイン展（愛知県陶磁美術館） ・韓国陶磁デザイン協会交流展（韓国） ・ゆるくら展（ノリタケギャラリー） ・萬古陶磁器デザインコンペ 審査員（三重） ・陰のクラフト陽のクラフト展（愛知）
佐藤 文子	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤文子作陶展（瀬戸陶芸協会常設ギャラリー） ・第52回東海伝統工芸展（愛知県美術館） ・東海伝統工芸の今～第52回東海伝統工芸展より～（愛知県陶磁美術館） ・第81回瀬戸陶芸協会展（瀬戸信用金庫） ・瀬戸信用金庫新収蔵作家展（瀬戸信用金庫） ・愛知県健康福祉部ーアール・ブリュット展審査員と障害者芸術活動支援事業「出前講座」での陶芸指導及びあいちアール・ブリュットサテライト展（愛知県陶磁美術館）の企画・運営 ・長久手市平成こども塾における大学院生による陶芸ワークショップの開催 ・（株）中部リサイクル「石材を活かした新製品開発」の共同研究
田上 知之介	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回国際陶磁器展美濃 陶磁器デザイン部門 ファクトリー分野 入選/スタジオ分野 入選 ・愛知県陶磁美術館企画展「愛知 やきものプロダクトデザイン」展出品 ・小石原焼陶器共同組合の新たなブランド「Co-ishiwara」を立ち上げ、新製品のデザインに携わる。2022年2月に東京展、3月に福岡展で成果発表展を開催 ・2021 韓国陶磁デザイン協会国際交流展「ぬくもりの事物」（京畿生活陶磁美術館） ・日々のうつわ展出品（静岡） ・国際コンペ出品（国際陶磁器展美濃） ・国立ソウル科学技術大学校との研究成果発表交流展（韓国）
崔 宰熏	<ul style="list-style-type: none"> ・2021 韓国陶磁デザイン協会国際陶磁特別企画展「Objects of Warmth」（京畿生活陶磁美術館） ・第46回愛知県立芸術大学美術学部教員展 ・The Ceramic Design Exhibition「seed展 vol.4」（Gallery FUNGER FORUM） ・愛知_やきものプロダクトデザイン展（愛知県陶磁美術館）
関口 敦仁	<ul style="list-style-type: none"> ・関口敦仁展 手がとどくけど さわれない（0美術館）
＜音楽学部＞	
小林 聡	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブ協奏曲の作曲、ハーブシンコードのための新作、ハーブの歴史・構造・奏法についての研究 ・“Glass Swan” for Piano、新作歌曲の作品発表
山本 裕之	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーフォニアムとオーケストラのための作品を初演（静岡） ・神奈川県民ホール主催「C×C」監修、作品1曲の初演と3曲の再演（神奈川） ・吹奏楽作品の初演（北海道）
成本 理香	<ul style="list-style-type: none"> ・「III(b)-海のざわめき III(b)～6台のトイピアノのための」作曲（世界初演、石川） ・「The Stones V for low string ensemble」作曲（世界初演、愛知） ・学校法人愛知享栄学園栄徳高等学校応援歌「Here for You」作曲 ・『兼田敏「ピアノ曲集《16 DAYS》」の分析』愛知県立芸術大学音楽学コース紀要 MIXED MUSE 17 (MIXED MUSE (17), 5-21, 2022)
安野 太郎	<ul style="list-style-type: none"> ・大地の芸術祭にて「偽ハルモニア論」を発表（上郷クローヴ座） ・AI美芸研にて「Singing Bird generator」を発表（望岳荘） ・「安野太郎のゾンビ音楽『大霊廟 III』-サークル・オブ・ライフ-」を公演（京都芸術センター）

井上 さつき	<ul style="list-style-type: none"> ・監修・執筆した単行本『音楽と越境』の出版 ・大学紀要や『ミクスト・ミュージズ』で論文を発表 ・季刊誌『ムラマツ』連載中の「フランス・フルート奏者列伝」を執筆 ・病院での芸術アウトリーチについての研究
東谷 護	<ul style="list-style-type: none"> ・漫画、灰田高鴻「スインギンドラゴンタイガーズ」(講談社)(第24回文化庁メディア芸術祭マンガ部門新人賞受賞)の監修
森川 栄子	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立芸術大学芸術講座「21世紀ドイツリートの魅力」(愛知県立芸術大学室内楽ホール) ・リサイタル「現代歌曲の夕べ」(東京オペラシティ) ・2021年度 第75回全日本学生音楽コンクール声楽部門 名古屋大会および全国大会審査員
小原 啓楼	<ul style="list-style-type: none"> ・OnlineKHK「ヴォイストレーニング3回連続講座」 ・第1回「イタリア語ディクショント発声～文明の衝突と脳科学からの示唆～」 ・第2回「モーツァルトの求めたフレーズ～NEOピリオドアプローチとしての可能性～」 ・第3回「レチタティーヴォ・セッコの理解～韻律とプレスマネージメント～」 ・文化庁アートキャラバン事業「クラシック音楽が世界をつなぐ」ベートーヴェン「第九」より第4楽章、『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」他 ・「第九」2021 Tokyo Symphony Special Concert ・ジョナサン・ノット(指揮/東京交響楽団/新国立合唱団) ・アルバム「Nessun dorma～Non shall sleep」CD発売
初鹿野 剛	<ul style="list-style-type: none"> ・オペラ出演 名古屋テアトロ管弦楽団《トスカ》(東海市芸術劇場) ・愛知祝祭管弦楽団「ワグナー・ガラスペシャル」(愛知県芸術劇場コンサートホール)
森 寿美	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏研究 モーツァルト:『戴冠ミサ』、サン＝サーンス:『レクイエム』、グノー:『チェチーリア荘厳ミサ』(愛知) ・第78回中部フィル定期演奏会 KOMAKI シリーズ2 ベートーヴェン:『第九』(小牧市市民会館ホール) ・作曲家平田聖子の世界【親鸞】コンサート(みやまコンセール) ・ブリテン:オペラ『カーリユー・リヴァー』旅人役(名古屋能楽堂)
掛谷 勇三	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノリサイタル ショパン バラード/ラフマニノフ:コレルリの主題による変奏曲 作品42 他の作品研究及び発表(東京) ・ピアノ演奏研究(ラフマニノフ、スクリャーピン、シューベルト、ショパン、ラヴェル、モーツァルト シマノフスキ)
中尾 純	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリャーピン・ピアノソナタ全曲演奏会 Vol. 1(東京文化会館) ・スクリャーピン・ピアノソナタ全曲演奏会 Vol. 2(東京文化会館) ・「ケルンの風」リャプノフ作曲ピアノ六重奏曲(電気文化会館)
武内 俊之	<ul style="list-style-type: none"> ・約3年に及ぶ Rachmaninov ピアノ作品に関する集中的な研究の集大成として、アルバムのレコーディングを実施
福本 泰之	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋二期会オペラ「魔笛」全幕 コンサートマスター出演(日本特殊陶業市民会館) ・「ケルンの風」C.カンギーサーとの室内楽(電気文化会館) ・愛知県立芸術大学オペラ公演「イドメネオ」 コンサートマスター出演 ・愛知県立芸術大学弦楽合奏団 第16回定期演奏会(三井住友海上しらかわホール)
花崎 薫	<ul style="list-style-type: none"> ・ベートーヴェン、チェロとピアノのための全作品レコーディング ・ベートーヴェン、3重協奏曲、作品56、愛知室内オーケストラと共演 ・「ケルンの風」演奏会(電気文化会館) ・ブラームス室内楽の夕べ(宗次ホール)
桐山 建志	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ全曲演奏会 ・エルデーディ弦楽四重奏団にて、ベートーヴェンの作品132を中心に、研究・演奏活動を実施 ・ボンポルティの作品研究
渡邊 玲雄	<ul style="list-style-type: none"> ・京都 Rohm ミュージックフェスティバル(ロームシアター京都) ・愛知県立芸術大学音楽学部第54回定期演奏会(愛知県芸術劇場コンサートホール) ・文屋充徳先生リサイタル(電気文化会館) ・アーティスト・イン・レジデンス事業招聘アーティストとの共演(コントラバスアンサンブル(コントラバス12重奏)及びデュオでの演奏) ・久石譲 Future Orchestra Classics vol.3(東京、長野) ・アンソナル of トウキョウ定期演奏会(紀尾井ホール) ・「ケルンの風」演奏会(電気文化会館)
深町 浩司	<ul style="list-style-type: none"> ・セイジ・オザワ松本フェスティバル2021 オーケストラ コンサート ・東京交響楽団第693回定期演奏会 ・日本フィルハーモニー交響楽団第372回横浜定期演奏会<秋季>

橋本 岳人	<ul style="list-style-type: none"> ・中部フィルハーモニー、新日本フィルハーモニー、東京ニューシティ、名古屋フィルハーモニー有志オーケストラに首席客演フルート奏者として参加
大塚 直	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費による研究「劇作家エデン・フォン・ホルヴァートの亡命生活と後期戯曲の現代的意義」 ・独文学会東海支部機関誌に『ウィーンの森』について、愛知芸大紀要に『セーヌ河の少女』について論考を執筆

16. 企業、研究機関などとの連携、共同研究

【芸術大学】

<共同研究>

内容	共同研究者
「中部リサイクル製造石材の新規製品開発」の共同研究	中部リサイクル(株)
野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」の保存処置および調査研究の共同研究	名古屋造形大学
有機天然顔料の生成に関する研究	東京藝術大学油画専攻技法材料研究室
アルミ原材料を使用した現代アート作品の制作および市原アートミック芸術祭への共同参加	不二サッシ(株)

<受託研究>

内容	研究者
愛知県立旭丘高等学校所蔵 油画作品 都築 浩「バレリーナ」の修復処置	愛知県立旭丘高等学校旭美50年記念事業実行委員と文化財保存修復研究所、油画専攻教員
野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」第1-3幅修復	野亨寺と文化財保存修復研究所、日本画専攻教員
「長久手合戦図屏風」模写制作	長久手市、徳川美術館、日本画専攻教員、文化財保存修復研究所
宮本三郎の絵画技法（愛知県美術館所蔵《裸婦》）調査	愛知県美術館と文化財保存修復研究所、油画専攻教員
宮本三郎の絵画技法（愛知県美術館所蔵《裸婦》）修復	愛知県美術館と文化財保存修復研究所、油画専攻教員
長久手中学校壁画『虹』修復	長久手中学校と油画専攻教員
豊田小原和紙のプロモーション映像	豊田市とデザイン専攻教員
油彩画 寺崎武男《ヴェロネーゼ「レヴィ家の饗宴」模写》の修復	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団と油画専攻教員
願照寺蔵「親鸞聖人真向の御影」の復元研究	願照寺と文化財保存修復研究所、日本画専攻教員
油彩画 中西夏之《M-shaped 83-1》修復	㈱サイズと文化財保存修復研究所、油画専攻教員

＜企業、研究機関などとの連携＞	
内容	連携
所蔵作品における劣化状況の調査を受託	愛知県美術館、名古屋市美術館と文化財保存修復研究所
「だれでもピアノ」事業	東京藝術大学（病院アウトリーチプロジェクトとして関与）
音楽の感情測定プロジェクト	愛知県立大学 ICTテクノポリス研究所（病院アウトリーチプロジェクトとして関与）
陶磁器関連産業の活性化と人材育成に寄与することを目的にセラミックデザインコンペティション事業を受託し、セラミックの可能性「出会い」をテーマに「第3回 CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 2020」を実施した。	一般財団法人神戸財団（受託事業）
次世代を担う若手芸術家の発信発表の場を創出し、経済界と現代アートとの融合、停滞した経済への考え方を革新する新たな価値観を生み出す活動を実施している。イノベーターズガレージ賞の創設、制度設計、受賞者の審査を行った。 Music in the GARAGE! 受託事業 7月と12月にコンサートを実施した。	中部圏イノベーション推進機構
長久手アピタリニューアルオープンメインビジュアル作成依頼があり、地域連携事業として実施した。	(株)アイワット
学生による商品企画の依頼があり、地域連携事業として、マスクデザインについて学生がプレゼンを行った。	(株)横井定
学生による展示依頼があり、「芸大生の ShowCase」と題し、本学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学が参加し、東急ホテル2階のショーケースに作品を展示した。	(株)CBCテレビ CBCクラブ事務局

17. あいち2022芸術大学連携プロジェクト

【芸術大学】

(概要)

あいちトリエンナーレが取り組んできた先鋭的な芸術の創造を継承し、発展させていくことを目指して設立されたアートラボあいちを拠点として、2016年より、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学の県内3つの芸術大学による企画展示を行っています。2022年度からは、名古屋学芸大学が加わり4大学連携となります。

各大学の境界を超え、若いアーティストたちの飛躍を期待するものとして毎年展覧会を開催しています。

(内容)

(1) 開催場所

アートラボあいち (大津橋)

(2) 企画内容

○2020～2021年度大学連携プロジェクト[アートマネジメントアカデミー2020]

期間	2020年10月～2022年3月
内容	<p>アートラボあいちと3大学による人材育成プログラム。3大学から推薦された参加学生がアートラボあいちで開催される企画展を運営することに携わります。実践内容に即したワークショップやゼミを受講することで、現場で必要なスキルを学びます。</p> <p>※本学からは2名(美術研究科デザイン領域1名、美術学部芸術学専攻1名)、が参加。ゲスト講師として、芸術学専攻小西教授がゼミを担当。(2021年3月13日実施。)</p> <p>(2021年12月に成果発表)</p> <p>2021～2022年度大学連携プロジェクト[アートマネジメントアカデミー2021]に向けて、本学より学生2名(美術学部油画専攻卒業生1名、美術学部油画専攻1名)を推薦。</p>

<愛知県立芸術大学独自企画>

○本学主催展覧会「メガネかえてみる?ジェンダー、身体、伝統を疑う」来場者数454名

会期	2021年9月17日～10月17日
内容	<p>アートというメガネを通して多様な観点からものごとを捉える試みを行います。女性は結婚すべき?女性の身体について語ることはタブー?人間は動物になれない?旅には身体の移動が伴う?家族とは?宗教とは?アーティストたちはさまざまな問いを提示し、あらゆる可能性を形にします。</p> <p>ゲストにキュレーターの荒木夏実氏とアーティストの遠藤麻衣氏を迎え、愛知県立芸術大学の学生6名とジェンダーや身体、家族などについて議論しながら構成しました。展覧会には東京藝術大学の学生によるジェンダーや身体性に着目した作品も出品されます。</p>

18. あいちアール・ブリュット サテライト展

【芸術大学】

(概要)

あいちアール・ブリュットとは、愛知県内の障害のある人の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動です。

2021年度は、2022年2月22日から2月27日に、陶磁美術館との共催「あいちアール・ブリュット サテライト展」において、本学学生、教員が以下の企画で展示監修を行いました。

(参加企画)

「マテリアル～土の声にふれる～」をテーマに、陶芸作品を中心とした、愛知県陶磁美術館、愛知県立芸術大学、福祉施設等のコラボ展示

(参加者)

“マテリアル～土の声にふれる～” 企画チーム

／愛知県立芸術大学大学院美術研究科プロジェクト研究1・8&愛知県陶磁美術館

・担当教員

美術科 彫刻専攻 神田 每実 教授

デザイン・工芸科 陶磁専攻 佐藤 文子 准教授

・学生

美術研究科 博士前期課程 1年生以上

19. コレクション展

【芸術大学】

(1) 2021年度 コレクション展1 「Praying for Others 小さな祈りのかたち」

日時：2021年4月2日（金）～4月18日（日）

場所：サテライトギャラリーSA・KURA

<概要>

小さな祈りのかたちをテーマに、信仰や平和を願う気持ちがどのようにあらわされてきたのか、本学の収蔵品をもとに紹介した。

<展示作品>

- ・今井珠泉《過去現在因果経 模写》1968年 紙本著色
- ・安田鞆彦《唐俑》制作年不明 紙本著色
- ・《時禱書零葉 時禱書より「聖母の夕べの祈り」》1440-1450年頃 子牛皮紙、彩色
- ・青木理恵《立書》2016年 純石鹼
- ・Pericle Fazzini《踊り子》制作年不明 ブロンズ
- ・Emile-Antoine Bourdelle《イサドラ》1909年 紙にインク
- ・小野忠重《海辺の家族》1937年刷 多色刷木版 等

(2) 2021年度 コレクション展2 「小さな部屋で」

日時：2022年2月1日（火）～2月13日（日）

場所：サテライトギャラリーSA・KURA

<概要>

コレクション展1に続く、第二弾として、作品の中に登場する「部屋」をテーマに、作家の思い描く居場所としての「部屋」がどのようにあらわされてきたか本学の収蔵品をもとに紹介した。

<展示作品>

- ・モーリス・ブリアンション《アトリエ》制作年不明 油彩、カンバス
- ・伊藤廉《鳩と水差し》1948年 油彩、カンバス
- ・笠井誠一《フルーツとドリルのある静物》1978年 油彩、カンバス
- ・駒井哲郎《食卓》1962年 銅版(シュガーアクワチント)
- ・ベン・シャーエン《リルケ「マルテの手記」より 一行の詩のためには…<版画集>
：静かなしんとした部屋で》1968年 リトグラフ 一セット38枚
- ・堀博喜《部屋I》1974年 油彩、カンバス
- ・古賀博之《画室》1991年 油彩、カンバス
- ・都築絵利奈《私の部屋 絵画 / 私の部屋 1/64スケール》2015年
キャンバス、油絵具、木、家具、写真、粘土等
- ・吉村順三 照明器具、椅子、大学設計図面ほか
- ・初瀬博輝 《逃避と熟考の睡眠》2009年 紙本着色、額装
- ・本田優紀 《積みあげられた時間》 2007年 紙本着色 額装

20. 新サテライトギャラリー SA・KURA

【芸術大学】

(概要)

名古屋栄のサテライトギャラリー閉廊から1年9ヶ月を経て、2019年6月に栄北（オアシス21至近）に「サテライトギャラリーSA・KURA」を開廊しました。ギャラリーの名称には、大学の研究や教育成果をアピールする場所として、県民や市民の記憶に残り親しみやすい名称がふさわしいとの考えや、地名である東桜の一文字を取り入れることで、地域や社会と連携する意図を込めています。

S=Satellite・サテライト

A=Aichi Art・愛知アート・AUA

KURA=蔵／研究や資料などの宝物を、ここから発信する拠点としての蔵

SA・KURA=東桜町の地名

2021年度のサテライトギャラリーSA・KURAは、全14の展覧会を開催しました。

<2021年度実施の展覧会一覧>

展示名称	日数	入場者数	一日平均
2021年度コレクション展1 「Praying for Others 小さな祈りのかたち」	15	117	8
宮坂恵子展「ぬかるみの淵」	14	157	11
共鳴～Kyo-meï	8	76	10
アーティスト・イン・レジデンス2021 歓喜のうた 水谷一氏	11	84	8
前橋瞳 Solo-Exhibition 「2極の等身大の狭間で」	14	209	15
風景・記憶（トーマス・ノイマン）展	15	180	12
遠藤麻衣 燃ゆる想いに身を焼きながら	27	309	11
久保智史 Boys' Life	13	204	16
染谷亜里可 Works 「第三の転回」 +D.D. 「王様だけがパンツを履く」	14	285	20
干支展(寅) FINAL	3	172	57
Forbidden colors 禁じられた色彩	14	307	22
コレクション展2「小さな部屋で」	12	170	14
博士学位論文作品展	6	81	14
石谷翔 “跡”	14	190	14
合計	180	2,541	14

21. 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組

【芸術大学】

(概 要)

芸大のブランドや知名度のより一層の向上を目指すため、大学WebサイトやSNS等の情報発信ツールの充実を図り、育研究、地域・社会貢献活動などに関する情報発信・広報を行っています。

(1) 全学広報プロジェクトチーム (2021年度)

学長 戸山俊樹

副学長 岡田眞治

学長補佐・広報(入試)委員会委員長 安原雅之

学長補佐 白河宗利

広報(入試)委員会委員 春田登紀雄

事務部門長 ロベル智子 他

(2) ブランディングのための指針 2020

以下の①～③の進め方でブランド力向上を目指す。

①現状の認識：客観的な視点から本学の現状を認識、愛知芸大ブランドの本質的価値を発見

②ブランド展開：ブランドコンセプト等を定義、ブランド展開のための計画を策定

ブランドスローガン：「芸術の森」で学び、つながる。

(新しい芸術を発見する学びの森でいきいきとした芸術家を育て、世界へ発信することをコンセプトとしている。)

③施策の実行：ブランド計画に基づき年度計画策定、愛知芸大ブランドを確立していく

2021年度のブランディングの基礎づくりのための取組み

- ・「ブランディングのための指針」による学内周知
- ・「ブランディング年度計画」の策定
- ・「大学案内」の質向上
- ・「デジタル・オープンキャンパス」の制作と配信
- ・「NEW大学ホームページ」の骨子策定

(3) 大学Webサイト・SNSによる情報発信

- ・大学Webサイト

掲載内容：大学の概要(専攻・コース案内、教員情報など)、

大学の主要行事(入学式・卒業式など)、

在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など

アクセス件数：528,859件（2020年度：525,741件）

- Facebook

掲載内容：大学の主要行事（入学式・卒業式など）、
在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など

アクセス件数：469,772件（2020年度：476,698件）

- Twitter（2020年度より公式SNSとして運用開始）

掲載内容：主催イベント、在学生、卒業生活躍情報など

アクセス件数：611,557件（2020年度581,082件）

22. コロナ対策本部会議

【法人運営】

(概要)

(1) コロナ対策本部会議

新型コロナウイルス感染症対策として、講義や実技等における感染予防対策、学生への支援等、定期的な情報共有及び具体的な支援策を実施するため、県大・芸大・法人の幹部職員により設置
(2020年6月～)

年度	実施回数
2020年度	17回
2021年度	21回
2022年度	2回※

※2022年6月1日時点

(2) 主な支援策

《2020年度》

① 学生緊急支援金の支給

対象：生活に困窮している学生や家計支援者の収入減等により新たに経済的支援が必要となった学生

内容：一人5万円を支給（県大生203名、芸大生112名に対し支給）

② 学生緊急支援基金の設立

自宅外から通学する経済的に困窮している学生に対して、寄附総額に応じた支援金を支給
対象：下記の要件の全てにあてはまる者

- ・自宅外から通学している学生
- ・経済的に困窮している学生
- ・「学生緊急支援金（5万円）」を受けていないこと

内容：一人当たり5万円を支給（県大生267名、芸大生88名に対し）

基金への寄附金額 24,881千円

【学生緊急支援基金】

- 1 支援の対象者及び内容
自宅外から通学する経済的に困窮している学生に対して、寄附総額に応じた支援金の支給を行う。
- 2 募集期間 2020年5月29日（金）から2020年12月31日（木）まで
- 3 寄附依頼対象者 基金の趣旨にご賛同される方（現職、OB、一般寄附者）
- 4 寄附金額（何口でも可）
個人 一口 5,000円
法人 一口10,000円
- 5 寄附の方法 インターネット（クレジットカード決済）又は振込
- 6 寄附者への返礼
ホームページへの寄附者名の掲載、大学主催イベントへの招待、感謝状贈呈等

- ③ 生協キャンパスペイへのチャージ補助
 日本学生支援機構の補助制度を活用し、大学生協キャンパスペイ（＊）へのチャージ支給を実施（＊） I C学生証に搭載されたキャッシュレスシステム
- ・ 県大：学部1年生を対象に1,500円を補助（576人に補助（計864,000円））
 - ・ 芸大：学部・大学院の正規生を対象に800円を補助
 （492人に補助（計393,600円））

《2021年度》

- ① 学生生活支援金の支給
 対象：2021年度新入生で経済的に困窮している学生
 内容：一人5万円の支給を行う。（県大42名、芸大40名に支給）
- ② 長久手市からの助成金（各大学100万円）を活用した、自宅外から通学する経済的に困窮している学生への食糧支援を実施（一人当たり3,000円相当の食料品及び長久手市より提供のお米を申請者199名に支給（県大：80名、芸大：119名））
- ③ 日本学生支援機構の新型コロナウイルス感染症対策助成事業の助成を活用した、生協の電子マネー（キャンパスペイ）へのチャージ補助を実施
- ・ 県大：学部1年生を対象に1,500円を補助（716人に補助（計1,074,000円））
 - ・ 芸大：学部・大学院の正規生を対象に2,000円を補助
 （698人に補助（計1,396,000円））
- ④ 長久手市からの助成金及び学生支援寄附金の残額を活用した、生協の電子マネー（キャンパスペイ）へのチャージ補助を実施
- ・ 県大：学部2～4年生及び大学院生を対象に1,500円を補助
 （1,933人に補助（計2,899,500円））
 - ・ 芸大：学部・大学院の正規生を対象に1,300円を補助。
 （576人に補助（計748,800円））
- ⑤ 長久手市からの助成金及び学生支援寄附金の残額を活用した、生協の電子マネー（キャンパスペイ）へのチャージ補助を実施
- ⑥ ワクチンの職域接種について
- ・ 期間 第1回 2021年8月23日（月）～ 8月27日（金）
 第2回 2021年9月27日（月）～ 10月1日（金）
 - ・ 場所 県立大学長久手キャンパス
 - ・ 接種者数

	第1回	第2回
県立大学学生	1,036人	1,029人
県立芸術大学学生	274人	270人
教職員（県大・芸大・法人含む）	126人	124人
学内関係者（警備・保守担当業者職員）	4人	4人

地域貢献枠	リニモ	29人	29人
	愛知環状鉄道	89人	89人
	名古屋商科大学	40人	40人
	科学技術交流財団	5人	5人
	愛・地球博記念公園事務所	17人	17人
	(地域貢献枠計)	(180人)	(180人)
合 計		1,620人	1,607人

《2022年度》

① ワクチンの職域接種（追加接種）について

- ・期間 第3回 2022年4月18日（月）～ 5月17日（火）
- ・場所 名古屋大学 豊田講堂
- ・接種者数

	第3回
県立大学学生	124人
県立芸術大学学生	36人
教職員（県大・芸大・法人含む）	27人
合 計	187人

23. トップマネジメントによる予算配分

【法人運営】

(概要)

予算配分及び予算編成にあたっては、事業計画立案の早い段階から、理事長及び両学長と財政状況等の見通しや運営上の課題を共有し、優先すべき事業等の指示を仰ぎながら実施した。

また、事業計画書の精査や関係部署・教員へのヒアリング等により事業内容の見直しを行い、捻出した財源をトップマネジメントにより主要事業へ再配分するとともに、理事長・学長の判断により執行が可能な「トップマネジメントによる事業費予算」を確保した。

[トップマネジメントによる事業費予算]

35,985千円(業務費総額(人件費除く)1,887,242千円の1.91%)

県大・・・4,263千円(大学裁量経費 4,263千円)

芸大・・・1,500千円(大学裁量経費 1,500千円)

法人・・・30,222千円(理事長裁量経費 30,222千円)

2022年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,887,242	35,985	1.91%	1,180,761	4,263	519,116	1,500	187,365	30,222

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2021年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,861,215	19,132	1.03%	1,161,710	12,435	502,807	4,060	196,698	2,637

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2020年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,866,844	16,626	0.89%	1,169,886	6,708	495,275	1,675	201,683	8,243

※・・・トップマネジメントによる予算枠

24. 2 大学による連携事業

【法人運営】

(連携事業の推進・検討体制)

(1) 2 大学連携推進会議

構成員 (10 名) : 理事長、事務局長、次長、法人事務部門長、学長 (2 名)、副学長 (3 名)、
大学事務部門長 (2 名)

2021 年度開催状況	議事等
第 1 回 (6 月 28 日)	2020 年度計画の実施状況及び 2021 年度の予定について
第 2 回 (11 月 5 日)	共同研究・共同事業の推進に向けたヒアリング・意見交換会の実施について

(2) 2 大学連携に関する窓口の設置

「2 大学連携に関するニーズ調査」(2020 年 10 月)において、連携を希望するときに相談できる窓口があればよいとの意見があり、2 大学連携に関する、研究、その他全般についての相談窓口を次のとおり定めた。

	窓 口
県立大学	研究支援・地域連携課 (研究支援担当)
芸術大学	芸術情報・広報課 (研究支援担当)
法人事務局	企画財務課 (2 大学連携全般)

(3) 共同研究・共同事業の推進に向けたヒアリング・意見交換会の実施

両大学の研究・地域連携を担当するセンター長及び事務局職員等に対して、ヒアリングを実施し、今後の 2 大学連携に向けた課題・検討事項の洗い出しを行うとともに、企画の立案に向けた意見交換を行った。

	窓 口
関係事務職員へのヒアリング及び意見交換の実施	(県大) 学術情報部長・研究支援・地域連携課長 (芸大) 学務部長・芸術情報・広報課長
研究・地域連携担当センター長等へのヒアリング	(県大) 地域連携センター長・学術研究情報センター長 (芸大) 社会連携センター長・芸術情報センター長
主な検討事項等	・両大学教員のマッチングの仕組み作り ・2 大学が連携した研究に対するインセンティブについて (特別研究費の予算措置など) ・両大学の連携事例の共有

25. 事務職員の育成（海外・他機関派遣研修）

【法人運営】

（概 要）

短期海外研修は、職員に海外研修の機会を提供し、国際的な資質や見識を高め、国際交流関係業務の運営や本法人研究者の国際的教育研究活動の支援を円滑に行うことができる事務職員の育成を目的としています。

他機関派遣研修は、法人の将来を担う人材の計画的かつ効果的な育成を図るため、法人以外での実務を経験させ、外部で学ぶ刺激を得ることで当該職員の視野の拡大を図るとともに、外部職員の交流受入を行うことにより、組織の活性化を図っていきます。

（内 容）

（1）短期海外研修

① 対象

本研修に参加したことがない事務職員（プロパー職員）のうち、本研修に対する参加意欲があり、派遣することが適当であると所属する課の課長が認め推薦した者。

（ただし、研修内容によっては語学力等の要件を追加する。）

② 研修の種類

- ・名古屋大学事務職員の短期海外研修に参加し、名古屋大学の学術研究拠点及びそれに準ずる拠点、または教育研究機関を訪問する。
- ・本法人で実施する国際交流関係業務に同行し、教育、研究支援、国際交流等の推進に必要な知識を習得するために業務の補助を行う。

（2）他機関派遣

① 対象

過去に他機関へ研修生等として派遣されたことがない事務職員のうち、原則、当該年度末時点の年齢が35歳以下の主事・主任級職員であり、現所属における勤務年数が今年度末時点で1年9か月以上である者

② 研修の種類

- ・文部科学省実務研修
実務研修生として勤務し、配属先が作成する研修計画に基づき、業務に従事する。
- ・名古屋大学派遣研修
研修として出向し、大学運営の実務を習得させるとともに、大学間の情報交換及び人的交流を行う。
- ・愛知県派遣研修
研修生として出向し、地方行政の実務を習得させるとともに、愛知県との情報交換及び人的交流を行う。
- ・一般社団法人公立大学協会派遣研修

研修として出向し、公立大学及び国の高等教育制度を習得させるとともに、大学及び文部科学省等との人的交流を行う。

(3) 各研修の実績人数

①退職者を含む場合

	海外派遣			他機関			合計	累計	職員数 ※	割合
	名大	法人	計	名大	その他	計				
2015	2	2	4	0	0	0	4	4	78	5.1%
2016	2	0	2	1	0	1	3	7	78	9.0%
2017	2	1	3		1	1	4	11	78	14.1%
2018	2	1	3	1	1	2	5	16	78	20.5%
2019	2	0	2		1	1	3	19	78	24.4%
2020	0	0	0	1	0	1	1	20	78	25.6%
2021	0	0	0		2	2	2	22	78	28.2%
累計	10	4	14	3	5	8	22			

②退職者を含まない場合

研修実績 (2022年3月時点 ※)	合計	職員数 ※	割合
	20	73	27.4%

※職員数には臨時雇用職員を含まない。

【短期海外研修経験者数の詳細】

年度	名大短期研修	法人短期研修
2015	2名 (モンゴル、タイ)	2名 (中国)
2016	2名 (カンボジア、ベトナム)	0名
2017	2名 (中国、タイ)	1名 (シンガポール)
2018	2名 (中国、アメリカ) ※うち、1名は2019年度他機関派遣 (文部科学省)にも該当	1名 (スイス)
2019	2名 (アメリカ、タイ)	0名 ※ウズベキスタンに1名派遣予定だったが、 新型コロナの影響で中止
2020	0名	0名
2021	0名	0名

【2022年度の予定】

- ・短期海外研修…2022年度5月現在、新型コロナウイルスの影響により派遣予定は未定。
- ・他機関派遣…文部科学省へ派遣 (1名、2022年4月～1年間)
東海国立大学機構 (名古屋大学) へ派遣 (1名、2022年7月～2年間)
愛知県へ派遣 (1名、2022年4月～1年間)
一般社団法人公立大学協会へ派遣 (1名、2021年4月～2年間)